

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 加藤敏昌
 幹事 青山敏郎
 会報委員長 小池 宗

No. 37

ROTARY BRINGS HOPE ロータリーは希望をもたらす

1986~87年度

RI会長 M.A.T. カバラス

第231回例会 昭和62年 3月24日(火) 雨

◇ “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 57名 出席 39名
 出席率 68.42%
 前回 3月17日 (修正出席率)96.49%

◇ ビジター紹介 名古屋東R.C特別代表 余語 栄三君 他11名

◇ お誕生日祝福

魚津夫人(3/19)、安藤君(3/27)

◇ ニコボックス

大口 弘和君 交換学生 清水 絵里さんの無事帰国を祝って。この経験を生かしてがんばって下さい。

久保田 皓君 娘が無事に小学校を卒業しました。

黒須 一夫君 教室員の博士授与式がありますので早退いたします。

菅原 宣彦君 ナタシオン・ラ・サーラ、浜松にオープンしました。松藤さんいろいろとありがとうございます。

○娘が大学卒業し、就職しました。

笹野 義春君 早退させていただきます。

松藤 国弘君 ナタシオン・ラ・サーラ・浜松、おかげさまで竣工しました。菅原さん、中部の渡辺さん、お世話になりました。

魚津 常義君 夫人誕生日祝い。

安藤 銀之助君 誕生日祝い。

尾関 武弘君 結婚記念日祝い。

◇ 青山幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたします。理事役員の方はお残り下さい。
2. 第260地区長野西R.Cより認証状伝達式(5/9)のご案内がきておりますので参加希望の方は事務局までお申し出下さい。
3. ロータリーの友3月号がきておりますので、お帰りにお持ち下さい。

◇ 青少年交換学生 清水 絵里さん帰国挨拶



昨年3月カナダのフリンフロンへホームステイしました。フリンフロンは大変いなかで人口8,000人、森と湖にかこまれ、銅、すず、銀の採掘でなりたっているところです。

カナダの学校は1年に2学期あり、9月にはじまります。授業は午前、午後2時間ずつ、月曜から金曜まであります。

食事は多量で油こく、気候は春が5,6月、夏が7,8月、秋が9,10月、冬が11~4月です。

家の大きさは、日本よりかなり大きく、型はマッチ箱のようです。地下には、娯楽室もあり、半数の家庭は別荘も持っています。

ロータリークラブ、交換学生を通して、いろいろな出会いがありました。この貴重な体験を与えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。最後に DAUPHIN MANITOBA RC のバナー紹介。

◇ 加藤(敏)会長挨拶

私達が日常何の抵抗もなく、使用する医薬品にも思わぬ落とし穴があります。皆様が御承知になっているような「アスピリン」にさえも、色々功罪があります。この薬は、明治31年頃より、我が国で発売され、現在も多用されています。漱石は49歳の時難治性巨大胃潰瘍で第五高等学校の教え子である東大教授の手厚い看護にも拘わらず、出血死を致します。

彼は、明治36年東大で前任者の「ラフカディオ・ファン」より引き継ぎを受け、英文学の講義をするようになりますが、彼に負けないように非常な努力をします。それが「ストレス」となり、家庭的にも非常に複雑な為には精神的ストレスは、相当なものであったと思われれます。更によく感冒にかかった為に、多

分アスピリンを常用していたものと想像され、強度な精神的「ストレス」に「アスピリン」が加わって若かりし頃より、胃病に悩まされていたことは、彼の書いたエッセーの中の所々に出てまいります。彼の代表作も殆どが血を吐きながら書いたものです。「秋暑し癒えなんと胃の病」とも詠んでいます。現在でも「アスピリン」は、解熱鎮痛剤のみならず血液凝固防止剤として使用されていますが、妊婦に対し、少量のアスピリンを投与することによって胎児の生育をよくするという報告もでてまいりました。どのような薬品にも、ある程度の副作用を伴うのは、止むを得ません。且て、私が某病院で研修をしていた時、名誉院長である故勝沼教授の診察日が週に1回ありました。その時杖について跛行されていましたので如何されましたかとお尋ねした処、当時としては、非常に珍しかった、痛風にお悩みの様でした。思わず発売まもない、高価であった「副腎皮質ホルモン」を御使用になったらと申し上げましたところ、先生は「君はまだ若い薬の恐ろしさを知らない」と言われ更に「僕は、新薬をすぐ使用するような事はしませんアトハンを飲んでいよ、胃潰瘍になる危険はあるにしろ」と苦笑されました。現在では、副腎皮質ホルモンに非常な副作用のあることも分かってまいりましたので私は限られた症例にしか使用していませんが、故勝沼教授が言われた事が今でも脳裏に焼きついています。

◇ 講演

“鷹と自然保護”

日本ワシタカ研究センター 常務理事 所長
中島 欣也 氏 (紹介 齊藤君)



自然界には餌にする側と餌にされる側とが密接につながった厳しい関係があり、これを「食物連鎖」と呼んでいる。例えばワシタカ類は水禽を捕食し、水禽は魚を餌にし、次いで大魚→小魚→水棲昆虫→動物性プランクトン→植物性プランクトンというように接続した関係が成り立っている。

人間という身勝手な動物が、地球上の各地

で排出した汚染物質は大洋に流れ込み、それが海水から養分を得ている植物性プランクトンに吸収され、食物連鎖の段階を経るごとに濃縮されて、各種の動物の体内に蓄積されて行く。結局は、食物連鎖の頂点に位するワシやタカたちが、最も濃厚な汚染物質を摂取し続けることになり、世界各国でワシタカ類の数が激減してしまった。

人類もワシタカ類同様に食物連鎖の頂点に立つ動物であるから、このままでいると人類もやがてワシタカと同じく滅亡の危機を迎えることになるゾと彼等が警告してくれているようである。

欧米各国では水質を改善するのは無論のこと、官庁や大学に附属した公立のワシタカ類研究所が、その保護対策に取り組んで著しい効果をあげているのだが、本邦では「日本ワシタカ研究センター」が唯一の専門研究機関で目下孤軍奮闘中である。

ワシタカ類は形態も生態も特殊な鳥類なので、取り扱いには特別な知識と技術とが要る。昔からタカの習性を巧みに利用して鳥獣を捕える鷹狩という狩猟手段が各国で行われて来たが、これはいわば人間とタカとがうまく付き合ってきた一つの体系である。特に日本古来の正統派の鷹狩術は、タカの主体性を尊重しながら調教する方法をとるので、負傷したワシタカ類の治療後のリハビリテーションや人工増殖で育成したワシタカ類の若鳥を大自然へ放してやる前の訓練に活用できる。

ワシタカ類が野生生活をして行くために心得ておかねばならない多くの事柄は、彼等が本能的に知っているのではなくて、ワシやタカの両親が育雛行動の過程で雛たちに教え、雛が練習して憶えたものである。だから当センターでは、人工授精や孵卵機による安易な増殖はせずに、本物のタカの夫婦に子育てを任せて、タカとしてのマナーを親から教えられた若タカを育成するシステムを開発している。国際学会でこの方式を発表したところ、東洋人らしい発想であると好評で、以来欧米各国から共同研究の申し出が相次いでいる。

ワシタカ類が安心して住める自然、それは人類にとっても好ましく美しい本当の自然であるはずだ。

◇ 次回例会 (3月31日)

講演 “売上税について”
会員 青山 敏郎 君

◇ 次々回例会 (4月7日)

講演 “焼物と文化”
日展評議委員

加藤 舜陶 氏 (紹介 佐野君)